

ぬけがら

二〇〇七年 文学座上演台本

松 佃
本 祐典
子 彦
|| 作
演出

ぬけがら

文学座上演台本

二〇〇七年五月八日～十七日

紀伊國屋サザンシアター

二〇〇七年五月二十三日～二十四日

ピッコロシアター

二〇〇七年五月二十六日

藤沢市湘南台文化センター

市民シアター

登場人物

男	(鈴木卓也)
父 1	(鈴木卓二郎八十二歳)
父 2	(鈴木卓二郎六十?歳)
父 3	(鈴木卓二郎五十?歳)
父 4	(鈴木卓二郎四十?歳)
父 5	(鈴木卓二郎三十?歳)
父 6	(鈴木卓二郎二十?歳)
女 1	(鈴木美津子、男の妻)
女 2	(田中久恵、葬儀屋の女)
女 3	(鈴木景子、若かりし頃の母)
女 4	(佐藤理沙、男の浮気相手)

県営住宅3棟114号室。
6畳間が二つの2DK。

#1 ある夕暮れのこと

部屋のアチコチに男が倒れている。

ベランダの窓から差し込む夕日が男達を照らしている。

服を着ている者、半裸の者、ステテコ姿の者……ある者は壁に寄りかかり、ある者は押入れの前、ある者はベッドからずり落ちそうに、またある者はその辺に適当に……まるで野垂れ死にしたように転がっている。

その数5人……やがて……「ピンポーン」と玄関のチャイム。

5人……

二度目のチャイム……やがて、ゆっくりとドアが開いて女が一人入ってくる。

女 1 …。

女1は部屋の中を見渡すとバッグから消臭スプレーを出して部屋中に撒き散らし…。さらに飽き足らないのか直接男達にも噴射。

5 人 …。

反応がないところを見るとやっぱり死んでいるのか。

女 1 殺人現場…。

部屋の中は敷きっぱなしの布団、男の一人暮らし風散らかり具合の中、なぜか転がっているウクレレ…。

女1、携帯電話…だが、部屋の隅で着信音。

女 1 (舌打ち)

電話を切ると観念したかの様に待ちの態勢。

しばらく…。

と、ドアが勢いよく開いてジャージ姿の男が入ってくる。

男 ハアハアハア…(肩で息)。

女 1 なに、ジョギング？

男 ハアハアハア…(話しかけるな)。

女 1 へえ、あんたでも運動することあるんだ。

男 スウ…ハア…(深呼吸)。

女 1 いつまで出しっぱなしにとく気なの…お父さん。

男、冷蔵庫から生卵5個、牛乳、かき混ぜて一気飲み。

男 ングエッ…フウ…。

女 1 …(唾然と見つめる)

男 なに。

女 1 や…別に…どこ。

男 祭壇。

白木の祭壇には「父」「母」の遺影が並んでいる。
その前に離婚届……

女 1 ……押していないじゃない。

男 大丈夫、大丈夫。

男、洗濯機を開けると中からまた一人ピヨコンと頭が飛び出した……
これで6人。

女 1 ちょっと……

男 うへえ、忘れてた……あんまり臭うんで一昨日洗ったんだ、こいつ……ああ、タオルと体が絡んじまってる……（匂い嗅いで）ちえっ、洗い直しだな。

男、シャツを脱ぐと洗濯機に投げ込み、山になつて洗濯物からタオル引つ張り出して汗を拭く。

女 1 なんか……変わったね、あんた。

男 現在、改造中……改造人間。

女 1 つて言うか、無理してる感じ。

男、仏壇の引き出しから印鑑、女1、バッグから朱肉。

女 1 どうして今日にしたの。

男 忌明けだ……親父が死んで四十九日。

女 1 ああ……そうだったね。

男 ……

女 1 ほら、こい。

男 ……

男、離婚届に捺印……と、同時に男達が突然喋りだす。

父 3 やっちまった……

父 2 とうとう押したか。

父 4 ああ、鈴木家の恥つさらした。

父 3 よく言うよ、この女たらしが。

父 4 女遊びがいいが離婚は駄目だって言っただよ、俺は。

父 2 しかしまあ、今じゃ離婚も珍しくはないし。

父 5 タハハ、自由主義のなれの果てだな。

父 6 (洗濯機から) おーい、俺にも聞こえるように話してくれ。

父 1 何…何が何だって？

父 2 卓也が離婚届にハンコ押したんだよ。

父 1 うんうん、アンコは好きだな。

父 4 ほっとけ、もうボケてんだ、そいつは。

父 3 おい、失礼なこと言うなっ！

父 4 俺が俺の事言っただが悪い。

男 ゴチャゴチャ言うな…。

女 1 え？

父 2 その通り、こいつの人生なんだから。

父 3 ハッピーバースデー ツー ユー…

父 5 何、急に。

父 3 歌ってやろうじゃねえか、今日からがこいつの第二章なんだ。

父 2,3,5 ハッピーバースデー ツー ユー ハッピーバースデー ツー ユー (唄う)

父 6 おい、何で進駐軍の歌唄ってるんだあ。

父 2 いいから、唄えっ！

父 達 ハッピーバースデー ディア マイサーン ハッピー

男 やかましいっ！

女 1 …。

父 達 (黙る)。

男 …ウワンウワンウワンウワン…まるで蟬みたいだ。

と、父達がモソモソと一斉に動き出す。

父1はベッドの中に、父2は「父」の遺影を手にしてトイレの中に、

父3は「父」の位牌を手に押し入れに、父4はウクレレを手に玄関から、

父5は「父」の遺骨を手にはべランダから、父6はそのまま洗濯機の中に……それぞれ去って行く。

そして部屋には、男と女1の二人……祭壇の上には「母」の遺影だけが微笑んでいる……。やがて……蟬の鳴き声がかすかに聞こえてくる。

#2 一日目のこと

真夏の昼過ぎ頃だろうか……遠くで蟬が鳴いている。
今、男は離婚届に判を押したところだが……。

男
ごめん……。

と、男はその離婚届をいきなりクシャッと丸める。

女1
……。

男
何がなんだか……。

女1
なに？

男
いや……。

女1
何がなんだか……なに。

男
だからさ……おふくろ死んですぐって……やつぱり、ちよつとさ。

女1
急すぎるってこと。

男
や 急じゃないけどさ……もちろん。

女1
だよな。

女1、バッグの中から新しい離婚届を出して男の前に。

女1
ほら、ここ、名前書いて印鑑。

男 ……何枚持ってたんだ、お前。

女1、束で出す。

女1 百枚くらい？

男 ……。

女1 区役所行けばいくらでも……まあ、日本中の夫婦が離婚できるくらいの枚数はあるでしょうって言うか、なきゃいけないよね、一応。

男 ……。

女1 こんだけあればいくらあんだでも決心つくと思って。

男、ウロウロと立ち上がる。

女1 ……なに。

男 いや、シャツ……。

女1 ……。

男 こんな格好で判押すのもちよつとな……。

男、洗濯機を開ける（もちろん父6はいない）。

男 ああ、忘れてた……通夜の前に洗ってそのままだ。

男、絡まった衣類からシャツを引っ張り出して着る。

男 着てりゃ乾くかな……。

女1 （うんざり）

男 あ、ついでに干しといたほうが

女1 いい加減にしてよっ！ 言っであつたハズでしょっ、お母さんの葬儀が済んだら即刻提出するって！

男 怒鳴るなよ、親父が起きる。

女1 本当に百枚使い切る気っ？

男 押さないとはいってないだろ、押すよ……判ってるって……俺だって。

女 1 ほら、ここっ！

男 だからさ、こんな調子でいいのかってことなんだよ……つまり。

女 1 は？ 調子？

男 これって俺たちの最後の共同作業だよ……ま、言い方変だけど。

女 1 ……

男 なんかもう少し気分良く……いや、違うな違う違う、そうじゃなくて……落ち着いた気分って言うか……こんなバタバタした中で終わっちゃっていいのかなってさ。

女 1 明日になれば押す気になれる……ってこと。

男 そうじゃない、もちろん今日でもいいんだ……そういう話になってたんだから……単純に時間の問題じゃなくて、その……状況かな、やつぱり。

女 1 ……

男 言ってる意味、判るかな。

女 1 婚姻届に判押すみたいに離婚届にも判を押したい。

男 ああ、ちよつと近いかな。

女 1 マンションの賃貸契約書に判押すみたいに離婚届にも判押したい。

男 や ちよつと離れた。

女 1 自動車保険に判押すみたいに離婚届にも判押したい。

男 ……

女 1 クロネコヤマトの受け取りに判押すみたいに離婚届に判押したい。

男 ……おい。

女 1 地下鉄6号線開通記念スタンプラリーみたいに離婚届に判押したい。

男 ちよつと待てよ。

女 1 どれだと思う、私が判押した時の気分。

男 え。

女 1 スタンプラリー？

男 思ってないよ。

女 1 馬鹿みたい……

男 ……

女 1 なに、噛み締めたがつてんのっ……

男、扇風機のスイッチ：：ノロノロと回り出す。

男 ……昨日の葬儀でさ：：出棺の後だっけ：：京都の叔母さんに聞かれたろ。

女 1 なにを。

男 親父が一人になっちゃうけどこれからどうするって。

女 1 ああ。

男 「お母さん倒れてからずっとうちの人が一緒に住んでますから」ってお前そう言っただよな、叔母さんに：：その「うちの人」ってニュアンスがさ：：まだ、なんて言うか：：。

女 1 ……。

男 そりゃもちろん親戚の手前もあるんだろうけど：：。

女 1 ……。

男 まあ、いいや：：何でもない：：ごめん。

女 1 優しい人：：。

男 え？

女 1 って世間で通ってるんだよね。

男 なに？

女 1 得だね、「優しい人」。

男 ……。

女 1 この期に及んでもまだ夫婦関係修復できる可能性が一厘でもあるんじゃないかって思ってる。

男 そんな訳

女 1 あるんだよ、あんた今までずっとそうして生きてきたんだよ、そのうち喉元過ぎたら何とかなるって、で実際何とかなって生きてきたんだよ。それがあんたの処世術なんだ、他人に傷負わしても自分が傷まみれになるのだけは避けたいんだよ、一見あんたの周りには波風立ってないように見えるからボロボロにされた沈没船が沈んでたって判らない：：得だね、「優しい人」。

男 ……。

女 1 どうなの、「優しい人」。

男 (立ち上がって) やめろっ!

女 1 怒ってないくせに……そうゆうポーズやめてくれる。

男 今……沈没してんのは俺だ……

女 1 全然足りない。

男 ……これ以上、どう沈めってんだよ。

女 1 お母さん殺したのあんたなんだよっ!

男 ……

女 1 こんなことお母さんの前で言いたくなかったけど……だって、そうじゃないの。

男 ……

女 1 あのとのお母さんの顔、一生忘れられない。

男 もう言うな。

女 1 親戚って情報早いんだね、あんたが郵便局クビになったこと皆知ってた……理由までちゃんと、どっから個人情報漏れてんだろって思った。お母さんのことなんかそっちのけだよ、みんな私達の顔色覗き見して……あんな葬式ってあるかつ……可哀相に。

男 気にしてるからそんな気がただけだろ……

女 1 全然、足りない。

男 ……畜生……畜生……

男、うずくまる。

女 1 判押せよ、早く。

男 ……畜生……

女 1 「優しくない人」で通ってるから……私は。

男 ……畜生……

女 1 そんなふうには生きてこれなかったんだから……私は。

と、気付くといつの間にか父1が覗いて見ている。

女 1 ……お父さん。
あつ

父 1 ……何しとるの?

ふーん
そう、もうせむしやういふく
さうして、
ふーん、

父 1 醤油（バナナにかける素振り）。

女 1 ……そのまま食べて下さい。

父 1 ふーん……。

父 1 は不満気な表情でベッドに戻ってバナナを食す。

女 1 殺したって言わないでよ、人聞き悪い。

男 お前が言い出したんだろ……。

女 1 知らなかった……あんなに訳判らなくなってたなんて……。

男 ハハ……日に日に溶けてくんだ、脳味噌……。

女 1 知ってるんでしょ、あんたの事も。

男 ……さあな……全部吹っ飛んじゃってんだ……。

と、玄関のチャイム。

女 1 ある意味幸せだな。

玄関のチャイム。

女 1 何してんの、出なさいよ。

男 ……。

男、うずくまったまま動かない……女 1、仕方なく出る。
ドアを開けると質素な制服の女性が立っている。

女 2 菊丸葬祭でございます。この度は御愁傷様でございました。

女 1 ああ、あなた……。

女 2 はい、鈴木様葬儀担当の田中でございます。あの、中陰壇のほうはもう安置されましてでしょうか。

女 1 ちゅういん？

女 2 あれ？ まだうちの者がお持ちしておりませんか？

男 （来て） おります、午前中に男性の方が組み立てて……。

女 2 さようでございますか。では只今からご説明のほうさせていただきます。

女 1 あ、ちよつと待つて下さい。

女 1、男を部屋に引つ張つて。

女 1 布団。

男 ああ。

男、布団を押入れに（もちろん父 3 はいない）、女 1 は離婚届を目の付かないところに片付けようとして……

女 1 （無い！）

男 どうぞ。

女 2 失礼致します。

女 2 は祭壇の前に座ると蠟燭とお線香。

男 この祭壇、正式には中陰壇つて言うらしいんだ。

女 1 （小声で）どこやったの。

男 何を。

女 1 （小声で）とぼけないですよ。

女 2 よろしいですか？

男 はい。

女 2 お亡くなりになりましたから四十九日間を中陰と申しまして、この世に生まれ
た瞬間を「生」が「有る」と書きまして「生有」、生きている間を「本有」、死
の瞬間を「死有」と呼びまして、次の世に生まれ変わるまでの期間を「中有」す
なわち「中陰」と呼ぶのでございます。

女 1 （キョロキョロ）

女 2 ああ。

女 1 へ？

女 2 何かお探しでしたらどうぞ。

女 1 いえ、大丈夫です。

女 2 続けさせていただきます。中陰期間はこのように「中陰壇」を安置します。その間お花、灯明はたやさないようにお願いいたします。お水は毎朝必ず換えて下さい。中陰の四十九日の間は故人にとって行き先が決まる大事な期間ですので、遺族の方々は喪に服し派手な行動は謹んでいただきますようお願いいたします。なにか御質問ございましたらどうぞ。

男 行き先が決まるって……天国か地獄かってことですか。

女 2 はい、行き先は「天上界」「人間界」「餓鬼界」「畜生界」「修羅界」「地獄界」これを六道と申しましていずれかに来世が決まるとされております。

男 へ、行き先は我々次第って事なんですか。

女 2 はい、故人が成仏できます様、生きている者が善い行いをし力を貸してあげる事を追善供養と申します。

男 派手な行動って……どの辺りまでが派手なんですかね。

女 2 はい、結婚式はもちろんパーティにコンパ、つまりパーティーとした行動全てです。

男 たとえば……離婚するだとかは……。

女 2 もつての他でございます。

女 1 ……。

女 2 四十九日経ちましたら中陰壇のほう引き取りにまいります。こちらの白木のお位牌から黒塗りのお位牌に換えてご仏壇に安置してください。お墓に納骨される際に必要ですのでこちらの「埋葬許可書」は遺骨とともに大切に保管して置いて下さい。

と、父1がバナナの皮とホッチキスを手にフラフラ来る。

父 1 やつぱりこの爪切りおかしいな。

女 2 お邪魔しております。この度は御愁傷様でございました。

父 1 どなたさん？

女 2 菊丸葬祭の田中と申します。

父 1 あんたでは判らん……母さんどこ行った。

女 1 お父さん、それもらいます、皮。

父 1 おーい、母さん、おーい（ウロウロ）。

男 （バナナと醤油持つてくる）……ほら。

父 1、バナナと醤油を手にも満足気にベッドへ。

女 1 大丈夫かな……（と、皮を捨てようとしてゴミ箱に離婚届発見）……！

男 いやいや、どうもすみません。

女 2 ああ……いえいえ……以上でございしますが、御質問ございませんか。

男 はい。

女 2 あの……付かぬ事を伺いますが鈴木卓也様のお住まいはこちらではございませんですね。

男 はあ……。

女 2 つまりはお父様は一人暮らし……。

男 今、僕と一緒に住んでますんで。

女 2 奥様とは別々に？

女 1 あ、何でしょう。

女 2 いえ、今私どもでは伴侶を亡くし一人暮らしを余儀なくされたお年寄りのためのマンションなどもご用意されてもらっております……。

男 老人ホームですか。

女 2 介護付きマンションです。認知症のお年寄りの方にも安心して入居していただけるよう、専門の介護士が生活のサポートをしております。

男 認知症？

女 2 昨年までは痴呆症と呼ばれておりましたが、ボケ老人の人権を尊重するとして認知症と改められました。

男 はあ……認知できないのは認知症とは言い換えは……。

女 2 アハ……只今キャンペーン中でございまして、契約された御遺族の方にもれなく「金色に輝くお釈迦さま携帯ストラップ」を進呈しております。

女 1 そういうのいいです、この人が面倒みますから。

女 2 一応、パンフレットだけでも。

女 1 いいです、この人「優しい人」ですから。

男 …。

女 2 アハ…そうですね、優しそうなご主人様ですもんね。ではまた何かございましたらご連絡下さい。

女 2、帰っていく。

女 1 …信じられない…。

男 うん…葬儀屋が老人ホームなんてなあ。

女 1 …。

男 え…なに。

女 1 (ゴミ箱から離婚届)…。

男 ああ…見られちゃマズイと思つて。

女 1 (丸める) …。

男 慌てて掴んだらクシャつて…。

女 1 …。

男 ごめん…判押すつもりはあるんだよ、本当に…あるんだけどさ。

女 1 …。

男 ちよつとだけ整理させてくれよ…ちよつとだけ…。

女 1 …。

男 今の人も言つてたし…喪に服すように…。

女 1 私、クリスチャンだから…。

男 いつからだよ…。

女 1 香典返し、ちゃんと始末しといてよ。

男 え、帰るのか、おい…。

女 1、帰っていく。

男 …。

男、離婚届の束を拾い上げて、一枚つつシワを伸ばすと、改めて目を通す。

男 …「黒インキ又は黒ボールペンで記入のこと…本籍地以外の役場に提出の場合
合は2通提出…戸籍謄本…調停離婚の場合調停証書…審判離婚の場合審
判書謄本と…理由…協議離婚のみならず…必要…理由…
(黙読)……………」。

男、離婚届で紙飛行機を作って飛ばす。

男 …墜落。

男、次々に紙飛行機を作っては飛ばす。
父1、その様子を見ている。

父1 ……
男 ……
男 作るか、親父も。

父1 何だ、それ？

男 飛行機。

父1 ふーん…。

二人、紙飛行機作りながら…。

男 どうする…これから。

父1 何が？

男 どうしような…これから。

父1 なあ…これ、母さんだなあ…。

男 ああ。

父1 死んだのが…母さん。

男 昨日、葬式出たろ…全然覚えてないのさ。

父1 …ああ…そういやあ、京都のねえさんが来とつたなあ。

男 心配してたぞ。

父1 そうか…死んだんだつたな…。

男

ああ。

父 1 買った物に、さういふものを買った。買った物に出るとんだと思つとつた……しばらく見んからどこまで買物行つとるんだと思つとつたけど……そつか、死んだんだ。

男

三週間も植物状態だった。

父 1

ああ、植物か……あれ……

男

ん？

父 1

こつからどう折る……

男

こうしてこうすりや羽根が出来る。

父 1

ふうーん……

男

……(飛ばす)。

父 1

美津子さんは。

男

いないよ。

父 1

死んだのか。

男

帰つたんだよ。

父 1

お前は。

男

え。

父 1

帰らんでええの？

男

離婚するから。

父 1

ふうーん……

男

不都合して、仕事も無いし。

父 1

ふうーん……

男

何にも無いんだ、もう……

父 1

これで飛ぶんだ。

男

落ちるだけだよ……

父 1

(飛ばす)……おお、飛んだ……酒、あれ。

男

ない。

父 1

母さーん、酒ないかなあ。

男

……

父 1

どこにおるんかな。

男

だから……ここだよ。

父 1 これ……母さんだなあ。

男

ああ。

父 1 死んだのか……母さん。

男

昨日、葬式出たあ……やっぱり覚えてないんだな。

父 1

ああ……そういやあ、京都のねえさんが来とったなあ。

男

心配してたぞ。

父 1

そっか……死んだんだったな……。

男

父 1

買った物に出るとるんだと思つとつた……しばらく見んからどこまで買った物行つとるんだろと思つとつたけど……そっか、死んだんだ。

男

三週間植物状態だったんだぞ。

父 1

ああ、植物か……あれ……。

男

ん？

父 1

こつからどう折る……。

男

だからこうしてこうすりや羽根ができる。

父 1

ふうーん……。

男

……(飛ばす)。

父 1

美津子さんは。

男

いないって。

父 1

死んだのか。

男

帰ったんだぞ。

父 1

お前は？

男

帰らなくていいんだよ、離婚すんだから。

父 1

仕事もないんだっけ。

男

覚えてるじゃないか。

父 1

これで飛ぶんかな。

男

飛ばない。

父 1

(飛ばす)……おお、飛んだ……酒、ぐね。

男

ないって、俺は飲まないんだから。

父 1

母さん、酒ないかなあ。

男

…。

父 1

どこに^何おるんかな。

男

…メビウスの輪だ…。

男、台所から料理酒を持ってきてコップに注ぐ。

男

…ほら。

父 1

熱燗がいいなあ。

男

ミツカンで我慢してくれ。

父 1

(一口) …こりゃあ、甘口だ。

男

そりゃそうだろう。

父 1

(二気に飲む) プウ…おかわり。

男

よく飲めるな^{やね}こんなの。

父 1

おかわり。

男

これ飲んだらもう寝ちゃえよ^{つてよ}。(注ぐ)。

父 1

(クイツと飲んで) …雷電だな…。

男

なに。

父 1

(紙飛行機をシゲシゲと) …これは…雷電だな。

男

…。

父 1

雷電はなB-29を撃ち落すために作られた戦闘機でな…知っとるか。

男

聞き飽きた。

父 1

こんなふう^にに離陸するんだぞ…(飛ばす)…あれはいつ頃だったかなあ…土

浦から名古屋の三菱工場まで雷電を取りに行つたんだ。

男

飲むとすぐにその話だな、まったく。

父 1

片足が出なかったんだ、雷電の…俺のまま着陸したらえらいことになるでな。

男

よし、ベッド行くぞ(父1を抱える)

父 1

どうしようか思いながらクルクル空のまわりを回しとつただけど

男

ほら、立てよ…立てって。

父 1

嫌だつ、嫌だつ。

男

昔話聞いてられる気分じゃないんだよ、俺は。

父 1 つまらん……

男 え。

父 1 お前はつまらんっ！

男 ……

父 1 つまらん……つまらん……つまらん……

父 1 の視線の先には「母」の遺影……

父 1 ……つまらんあ……

男 ……ああ……俺はつまらんよ、つまらん男だよっ！ けっつまづいて踏み外して

だらしなくてつまらん男なんだよっ！ だからさ、あんたはしっかりしててくれよっ！ なあ、親父頼むからよお……立てっ、立てよっ！

父 1 嫌だ、嫌だあ。

男、抵抗する父 1 を無理矢理ベッドに引きずって行く。

男 ハアハアハア……だったら寝てろ……死ぬまで寝てりゃいいんだよ……

父 1 ……あれ……蝉か……

男 え？

父 1 ……蝉が鳴いとるんだな。

男 蝉？

父 1 耳の中にウジャウジャおるっ！

男 ……

父 1 ウワンウワン……ウワンウワン鳴いとる……耳の中で鳴いとる……

男 おい……おい、大丈夫か……あっ！

父 1 は小便。

男 ちびりやがった……

男、父 1 をまた引き摺るように今度はトイレへ……。
トイレの中でズボンを脱がしたり。

男 まだ出るのか。

父 1 …。

男 勘弁してくれよ…もう…。

男、トイレの電気をつけて父1を置いたままズボンで床拭いて洗濯機の中へ…コップに飲みかけの料理酒…男、いきなり一気に飲み干す。

男 オエッ…。

さらに容器からゲホゲホとラッパ飲み…無理矢理飲み干すと散らばった離婚届を抱きかかえるように寝転がる。

男 …もう…勘弁してくれよ…。

と…蝉の鳴き声が聞こえてくる。

男 …本当だ…蝉が鳴いてる…。

やがて…蝉の声が止むと同時に窓から月明かり…あつという間に夜中になった…。

男はそのまま眠ってしまったっている様子…。

と、突如冷蔵庫が開いて中からハワイの民族衣装を着た若い女が現れる。

女 3 …さぶつ。

女3、冷蔵庫のドアをボタンと閉めると男、目が覚める。

男 …ん…。

女 3 ごめん、起こしちゃった？

男 や いいけど…頭痛え…。

女3、流し台に腰掛けて男の様子を眺める。

男 …あれ…何時だ…。

テーブルの上…空の料理酒…離婚届の紙飛行機…状況を徐々に把握…トイレに入れた父1…ついたままのトイレの電気。

男 おい…おい…まだ入ってんのか？（ノック）…おい、どうした…（ノ

ック）大丈夫か…おい…開けるぞ…。

男、トイレのドアを開けると便器にしがみつくように父1が倒れている。

男 あつ、親父っ！ …おい、親父しっかり…うわあああああつ！

男、トイレから飛び出る。

男 …なんだあ、なんだあ…これ…うわあつ。

男、もう一度父1を確認…。

男 皮…え？ 中身…うわあ…中身は…

と、ベッドから声。

（声） うるさいっ！ 何時だと思ってんだっ！

男 え…？

薄暗い中、父2が裸で立っている。

男 …あれ。

父2 夜中に騒ぐな、近所迷惑だろ、馬鹿。

男 …誰…え…あんた…？

父2 寝ぼけとるのか、卓也…いいから早く寝ろ。

父2、ベッドのタオルケットに潜り込む。

男

…親父…。

女3、台所に座ったままずっとその様子を眺めている。

暗転。

#3 二回目のこと

翌朝…。(女3の姿は無い)

女1がトイレの前に立っている。

女 1

…何、これ…。

男

だから「ぬけがら」だって言ってるだろ。

女 1

マジで言ってるの。

男

なら何なんだよ、それ。

女 1

私が聞いているんでしょうが。

男

他に何て言うんだ、「ぬいぐるみ」か。

女 1

死体。

男

じゃあ触ってみろよ、フニヤフニヤだぞ…ヒジだって逆に曲がっちゃうぞ、頭突いてみるよ、空気の抜けたドッジボールみたいにへこむんだぞ。

女 1

(トイレ掃除のタワシで突く)…いやああ、ホントだあ…。

男

な、な、だろ、な。

女 1

中身は。

男

コーヒー飲みに行った。

女 1

は？

男

喫茶店。

女 1 ……

男 日課だったんだよ、朝は6時に起きて下山公園散歩してから「ロキシ」って
行きつけの喫茶店でスポーツ新聞読みながらモーニングセット。

女 1 日課って…満足に歩けなかったじゃない。

男 だから俺がまだここに住んでた頃の話、とにかく十…いや、二十くらい若く
なってたんだよ、親父。

女 1 …昨日、変なモン食べさせた？

男 や 特に…まあ、しいて言えば料理酒くらいかな。

女 1 何飲ませてんのっ！

男 でもそれは俺も飲んだんだよ。

女 1 …一体、何してたの…あんた達。

男 や 普通に…。

女 1 (紙飛行機) じゃ何これ。

男 え？ それ、親父が飛ばして遊んでたんだな…たぶん。

女 1 ……

男 (紙飛行機を片付ける)

女 1 冗談じゃない…。

と、父2が帰ってくる。

父 2 おーい。

男 …おかえり…。

父 2 おいおい大変だぞお、モンゴル人 模範いつの間にか塙内が壁紙になつとる。

女 1 …あ。

父 2 あれ、お客さんか？

女 1 …ど、どうも。

父 2 あ、どうもどうも…どちらさん？

男 美津子だよ。

父 2 美津子…さん？

男 え 判んない？

父 2 前にお会いしましたっけ？

男 俺のカミさん……って言うか……うん、カミさん。

父 2 は？ お前結婚するのか。

男 してるんだよ、もう。

父 2 は？ いつの間に。

男 十年くらい前にさ。

父 2 何ふざけたこと言つとる……母さんは知ってるのか、このこと。

男 このことつて？

父 2 お前が結婚前提でこの女……この人とお付き合いしてることだよ。

男 そりゃまあ……。

父 2 俺に黙つて……あ、そうですか、いやいやしません……おい、母さんは。

男 なあ、親父……今、自分の歳いくつか判つてる？

父 2 何で。

男 何でもいいから。

父 2 ……卓也、ちよつとこつち来なさい。

男 え？

父 2 え？ じゃないよ……出来たのか。

男 何が。

父 2 子供でも出来たのかって言ってるんだよ。

男 違うよ。

父 2 だつたらお前どうして。

男 違うんだつて。

父 2 違わないよ、早すぎるんじゃないか……お前、今年郵便局入ったばかりだろ……

そりゃまあ親方日の丸だから安定してるとは言えもう少し仕事覚えてからでも遅くないだろ……それに見たところあの人とつくに三十過ぎてるんじゃないの？ 今はいいかも知れんけど……。

男 親父……俺もうすぐ四十三だぞ。

父 2 は？

男 ちよつと待つて……なあ、もしかして俺も若返つてる？

女 1 全然。

男 で、親父は八十四歳だ。

父 2 馬鹿言え、俺はまだ六十……あれ……

男 六十……いくつ。

父 2 ……三……四……ふゆだ。

男 総理大臣は？

父 2 中曾根。

男 ……

父 2 ……違うの？

男 そうか、ひよつとして……まだ、昭和？

父 2 ……

女 1 大丈夫……ですか？

父 2 あれ……何だ……これ……

父 2、祭壇を見つける。

男 死んだんだよ……おふくろ。

父 2 ……まさか……

男 親父は昨日、「ぬけがら」脱いで若返ったんだ。

父 2 ……ぬけがら？

男 ほら、これ。

父 2 をトイレに。

父 2 うわっ……何だこれ。

男 あんただよ……昨日までのあんた。

父 2 これが……俺……全然似てない気がするけど。

男 二十年後の親父だ。

父 2 ……嫌だよ……こんなの。

男 好き嫌いじゃなくてさ……そうなんだよ。

父 2 待て待て……昨日は俺……あれ昨日……昨日が随分昔の気がする……

男 ゆっくり思い出せばいいよ、ゆっくり。

父 2 この人は……美津子さんでしたっけ。

男 そう、俺のカミさん、女房。

女 1 って言うか……ストレスですけど。

父 2 さつき結婚して十年くらいって……

女 1 正確には九年です。

父 2 なら、あなたはうちの嫁ですか。

女 1 って言うか……ギリギリ。

父 2 何です？ そのストレスとかギリギリとか……

男 生活がね、ギリギリだから。

父 2 どれもそうだろうけど……あ、これからもこいつ宜しく頼みます。

女 1 はあ……頼まれてもどうかなってところなんですけど……って言いいますかどうもこうもないんですけどね……もはや。

父 2 この人さつきから言うことがいちいち良く判らんんだけど……

男 ゆっくり判ればいいから、ゆっくり。

父 2 ……不思議な感じはしたんだ……

男 え？

父 2 ……「ロキシー」のママ違う人だったし……馴染みの客達も見ないし、新聞に「平成」なんて書いてあるし、角の牛乳屋なくなってるし、交差点のそこ大きいマンション建ってるし……そうそう……金払おうとしたら千円札が二セ札みたいだった。

女 1 あ、それは私もそうでした。

父 2 え？ あんたも？

男 いちいち混乱させるなって。

父 2 浦島さんみたいだった……

男 まあ、逆だけだな。

父 2 不思議な感じだったよ……なんて言うか知ってる街なのにちよつとずつズレてる。

男 うん……

父 2 母さんは……何で。

男 心筋梗塞……七十^九歳……

父 2 ……

男 ……一昨日、葬式済んだところだ。

父 2 死んだばかりじゃないか……

父 2、「母」の祭壇の前に腰をおろす。

父 2 ……お前……

父 2 は「母」の遺影を見つめている。
女 1 と男は隣の部屋に……

女 1 病院連れてくの？

男 え、病院？

女 1 そりゃそうでしょ、原因判らないんだから。

男 病院たつて……何科？

女 1 そりゃ……皮膚科じゃないかな。

男 皮膚科？

女 1 とにかく、ロウソクが消える前に一瞬燃え盛るってアレかも知れないし。
男 縁起でもないこと言うなよ。

と、父 2 が寄ってくる。

父 2 あ……一つ確認しておきたいんだけど……ドッキリカメラじゃないよね。

女 1 違います。

父 2 ……うん……うん……

父 2、スゴスゴとまた祭壇の前へ。

女 1 嫌だからね。

男 え？

女 1 何かあっても私が面倒見る筋合いないからね。

男 誰もそんな事言っていないだろ。

女 1 お父さんとお母さんは別だから。

男 判ってるよ。

女 1 でも……まあ、良かったじゃない、寝たきりになられるよりは。

男 そりゃ、まあ。

父 2、「母」の遺影を手にする。

父 2 ……そうだ……妙な夢見たんだ……。

男女 1 ?

父 2 朝方、俺が寝てたら母さんが突然ベッドの脇に飛び込んできて……見たら目えひん剥いて茶色の顔しとった……口をパクパクさせて……だんだん目が白目だけになって、こりゃイカンと思って救急車呼ぼうとしたんだが、番号が思い出せん……ちつとも思い出せん……とにかく電話のところまで行こうとしたら……受話器持って若い女が立っとなった……。

男 若い女？

父 2 知らん女がニコニコしながら電話しとる……母さんは白目剥いて苦しんどるのに。仕方ないからその女に……「119番だ、119番呼べっ！」って叫んだんだ。

男 それが救急車の番号じゃないか。

父 2 うん……俺も叫んでから気がついた……気がついた途端、その女は冷蔵庫の中に消えてった……そんな夢。

男 それ、夢じゃないよ。

父 2 ……。

男 それ、おふくろが倒れた時の記憶だよ……親父が通報したんだ。救急隊員の人から聞いた状況と同じだよ……おふくろはベッドの横で白目剥いて倒れてた……で……駆けつけた時にはもう心臓が止まってたって……。

父 2 蝉が鳴いてた……ウワンウワン、鳴いてた。

男 それも夢じゃないよ。

父 2 そうか……現実だったか。

父2は遺影を戻す……と、同時に台所でカタンと音……
女1、見てみるとお皿が一枚……

女1 割れてる……

父2はトイレの「父1」を見つめる。

父2 ……俺は死んだのかも知れんな。

男 生きてるじゃないか、親父は。

女1 ねえ、その若い人ってお母さんじゃないかなあ……

男 どうして。

女1 や 何となく。

父2 そうか……

男 え？

父2 もう一度、やり直せるのか……俺は……

男 ……

父2、台所の引き出しを探り始める。

男 何。

父2 ゴミ袋どこだ。

男 手にしてる、それ。

父2 こんなじゃなくて黒いビニールの。

男 今それなんだよ。

父2 え……丸見えだな……ま、いいか。

男 おいおい、どうすんの……捨てる気かよ。

父2 こんなジジイとは決別だ。

男 ちよつと待てつて。

父2 離せ、こんなところにあつたら小便するのだつて邪魔だろ。

男 もし戻らなきゃならない時がきたらどうすんだよ。

父 2 戻る？ またそれ被るの？

男 可能性はあるんじゃないかな。

父 2 絶対にヤだぞ、俺は。

チーン、とお鈴が鳴る：：女1が「母」に手を合わせている。

男 美津子：：。

女 1 帰ります。

男 え？

女 1 お父さんも平気みたいだし。

父 2 まあまあ、そう急がんでも：：これ処分したら昼にしましょう、ここは一番嫁の手料理でも頂きたいもんですなあ、ね、美津子さん。

女 1 帰ります。

男 美津子：：。

女 1 さっき言ったでしょ。

男 ああ：：そうだけど：：。

女 1 仕事ありますから、お大事に。

女1、去る。

父 2 愛想のない嫁だなあ。

男 そんなことはないんだけど：：（父1をズラして）：：こうしとけば邪魔にはならないだろ、もう少し様子みてさ。

父 2 ちえつ、判ったよ：：飯つ。

男 （バナナと醤油）

父 2 それだけか。

男 贅沢言うな、昨日まで喜んで食べてたくせに。

父 2 チンパンジーじゃあるまいし：：醤油なんかどうすんだ。

男 あれ、いらなの？

父 2 ……大丈夫か、お前。

男 …。

父 2 母さん、いつから心臓悪くしたんだ。

男 一度倒れたじゃないか、俺たちが結婚してしばらくして。

父 2 …。

男 命に別状ないって医者から聞いて…あんだその日の夕方、病院で酒飲んじやつて看護婦にド叱られたろ。

父 2 え？

男 酔っ払って隣の入院患者のベッドで勝手に寝ちやつたんだよ、それであんだ出入り禁止になったから美津子がずっとおふくろの面倒看たんだ。

父 2 …。

男 いいよ、無理に思い出さなくても。

父 2 うん…。

男 それから二ト口手放せなくなつたんだよ、おふくろ。

父 2 病気とは縁の無かつた女だったんだがな…そうか。

男 医者からも今度爆発したら危ないって言われてただけだな。

父 2 俺のせいかなあ…やっぱり。

男 え？

父 2 俺が心配かける度に、心臓に火薬が詰まつてつたんだなあ。

男 親父のせいじゃ無いんだよ…おふくろ死んだのは。

二人、黙々とバナナを食べる。

父 2 お前んところは…。

男 ん？

父 2 うまくいつとらんみたいだな。

男 …。

父 2 美津子さんと。

男 なんで。

父 2 見てりゃ判るさ…こんなとこに離婚届が捨ててあるし。

男 あ…。

父 2 尋常じゃないなあ、この枚数。

男 勝手に見るな。

父 2 子供はおらんのか。

男 ああ。

父 2 なんで作らん。

男 努力はしたんだけどさ。

父 2 そうか、ま、仕方ないが……離婚なんてしないに越した事ないんだぞ。

男 ……

父 2 どういう事情があるにせよだ。

男 ……俺が悪いんだ、全部。

父 2 そりゃそうだ、こういう場合は大抵男が悪いんだから……話してみろ。

男 え、今？

父 2 浮気でもしたか。

男 ……まあ。

父 2 なんだ、そんな程度のコトで。

男 軽く言うなよ。

父 2 相手の女は。

男 大学生の頃に付き合ってた女がいてさ。

父 2 佐藤さんだろ？

男 あれ？ 何で知ってる？

父 2 この前だったか遊びに来てた子だろ。

男 この前って……ああ、そうそう二十年くらい前になるけど。

父 2 お前と一緒に評判らん映画撮った娘な、^{やたら。ハンナリ}目が~~ヤハハハ~~とした。

男 そう「爆弾娘」って自主映画な……そっか覚えてるんなら話早いや……で、卒業して別れたままだったんだけど……3年前、映研の創立30周年ってのがあって久しぶりに顔合わせたんだよ。

父 2 ありがちな話だなあ、また。

男 うん……ホントにな。

父 2 男の浮気の二つや二つ目えつむってもらえんのか、美津子さん。

男 しばらくして……子供が出来たって言われたんだ……佐藤さんから。

父 2 え、そっちにか。

男 で、どうしようって……言ってきた。

父 2 産ませた訳じゃないだろうな。

男 まさか、って言うより嘘だったんだけどな、それは。

父 2 嘘？

男 どうも彼女の手口みたいなんだ、繋ぎ止める……手口っていうとアレだけど、癖ってのかな。半生の時分、さうだったけど極度の寂しがり屋っていうのか……とにかく誰かが傍にいないと耐えられないんだよ、あいつ。

父 2 (思い出すように) ああ……いたなあ……そういう女。

男 携帯にメールは途切れなく入ってくるし……「手首切ってみました」とか……飛んでくとピンピンしてんだけどさ……そんな事も何度かあつてズルズル……。

父 2 厄介なのに手え出したなあ、お前も。

男 さすがにもう少し大人はなつてると思つてた……とにかくキツパリ手え切らなきゃって思つて、最後に会つたのがひと月前だ。

父 2 ズルズルし過ぎだ、いくらなんでも。

男 いや、その間何度も別れようとしたんだけど……あいつも可哀想なところがあつてさ……バツイチで子供いるんだけど養育費も貰つてなかったり、職場で苛められては長続きしなかったりでさ。

父 2 で、そのひと月前、手え切つたのか。

男 ああ、ハッキリさせようとあいつのマンションに行つたんだ。

父 2 お前なあ、そういう時に何で相手の家に行つちゃうんだ、馬鹿。

男 うん……ホントにな。

父 2 で、どうせまたやつちやつたんだろ。

男 やつてないよ……チヨコレート食べて別れ話しただけだ……帰り際、あいつが用事があるって言うんで駅まで送つてやることにして助手席に乗せた……車をバックさせた途端ドーンて……出てみたら小学生が自転車ごと倒れてた……。

父 2 撥ねたのか。

男 右上腕骨折、全治一ヶ月……業務上過失傷害及び酒気帯び運転……。

父 2 酒気帯び？

男 ……チヨコレート……ウイスキーボンボンだったんだよ……。

父 2 え そんなんで？

男 反応出たんだよお、俺、酒飲めないから……3つしか食べてないのに。美津子にはバレルし、郵便局は懲戒免職だし……

父 2 ちよつと待て、懲戒免職つて。

男 決まってるだろ、酒気帯びで人撥ねたら即刻クビだよつ。

父 2 ……おいおい。

男 罰金、慰謝料、治療費全額、おまけに退職金はパー……。

父 2 何もかも……お前……。

男 人間が駄目になるのつて……一瞬だ……。

男、またうずくまる。

父 2 そりゃ美津子さん、これだけ書くハズだ、離婚届……。

男 ……。

父 2 ……公務員試験受かった時、これでお前は一生安泰だつて信じてたのになあ。

男 うん……。

父 2 母さん、心配してたんだよ……お前、学生の頃映画に現抜かしてたから、まとも就職出来ないんじゃないかって……それだけに母さん本当に肩の荷降りたつて、泣いて喜んだのに……。

男 親孝行したつもりでいたよ……俺だつて……。

父 2 待てよ、母さんはこのこと……。

男 (うなづく)

父 2 ……。

男 おふくろ、この話聞いた次の日に倒れたんだ……。

父 2 なんで俺に話さんかったんだっ！

男 あんたボケてたから……。

父 2 ……あ、そう。

男 俺が死んじまえば良かった……。

父 2 馬鹿だなあ……お前。

男 うん……。

父 2 別れたくはないんだろ、美津子さんとは。

男 ……(うなずく)。

父 2 そうか……そうだったのか……。

男 ^{いえ}そうかわす？

父 2 今、判った……俺が何故生まれ変わったか……安心しろ、卓也、俺が一肌脱いでやるよ。

男 ……。

父 2、もう一本バナナを頬張る。

暗転。

#4 三日目のこと

翌日……。

父 1 と父 2 が並んでベッドにもたれている。

男が電話している。

男 ……だから……そうなんだって……昨日、俺たちの事話したんだよ、親父に……

聞かれたからさ……そしたら「俺が一肌脱ぐ」って言ってさ、本当に一肌脱いじゃったんだよ。

……そう……分かんないって、俺寝てたんだから……病院……お腹が痛いって保険証持ってきた……ちよつと時間あったら顔出して……口寒じゃないよ、本当に(切れる)……ああくそつ。

男、父二人を眺めて……。

男 どうなってるんだ……おい。